

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎理学療法学演習Ⅱ		演習・講義	小林 正明・谷 和真・坂東 恵美子・小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
実習における理学療法評価・治療の実施を見据え、対象者との対応・問診、症例情報の整理、症例あるいはペーパーペーシェントを通しての統合と解釈の実際を経験し、その大切さを認識する。また実習における記録の方法を修得する。				
授業の到達目標				
1. 臨床実習の目的や課題内容が説明できる 2. 症例情報を整理して、症例の全体像が説明できる。 3. 理学療法評価、統合と解釈、治療の立案までの流れを経験し、調べたことも含めて、障害像について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション、評価実習・長期実習とは(1)			
2	評価実習・長期実習とは(2)、患者情報の分類(1)			
3	患者情報の分類(2)			
4	ケーススタディ(関連施設の利用者様から学ぶ)オリエンテーション			
5	症例情報から考える仮説・検査項目の立案			
6	動作観察から考える仮説・検査項目の立案			
7	検査結果を整理しSOAPでの記録を学ぶ			
8	ケーススタディ 利用者様から学ぶ （関連施設での実習）(1)			
9	ケーススタディ 利用者様から学ぶ （関連施設での実習）(2)			
10	症例レポート・発表用レジュメについて ケーススタディ 症例に基づく学修(1)			
11	ケーススタディ 症例に基づく学修(2) 情報をICFで整理			
12	ケーススタディ 症例に基づく学修(3) 症例レポートの統合と解釈を学ぶ			
13	ケーススタディ 症例に基づく学修(4) 統合と解釈の例示、最終評価結果の提示			
14	ケーススタディ 症例に基づく学修(5) 症例レポートの考察を学ぶ(1) 発表用レジュメを学ぶ			
15	症例レポートの考察を学ぶ(2) ・ 臨床実習に向けたまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	40%	講義中に出される課題、レポートを評価する		
小テスト				
平常点	20%	講義やグループワークへの参加態度を評価する(自分から学ぶ姿勢が重要です)		
その他	40%	関連施設での実習へ取り組む姿勢や提出物を評価する(実習前後の準備や振り返りも含める)		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版		内山靖	医学書院	
PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド		山口美和	医学書院	
自由記載				
備考				
これまでに学んだ疾患・理学療法評価・治療に関する知識も必要です。事前にアナウンスするので、必要と思う資料を各自準備すること。				